

奥秩父：両神山 避難小屋泊

- ◆日程 2023年5月27日(土)～28日(日)
- ◆メンバー L：GT、SD、ST(S)、NO、SK(H)、HY(K)、OK
- ◆天候 晴れ

新人向けステップアップ企画でもある両神山避難小屋泊に、GTリーダーのもと合計7名が参加した。

5月27日(土) 天候：晴れ

9時45分に日向大谷口から出発。慣れない重さのザックを担ぐ新人にお気遣いいただきながら、しっとりとした気持ちの良い沢沿いを登っていく。山の奥深くへと進むにつれ、日常をすっかり忘れて別世界に入っていくような感覚があった。

1日目は正味2時間の行動。昼頃には立派な避難小屋に到着し、軽いランチの後ツェルト設営と遭難救助の実習を行う。比較的スムーズだった設営とは裏腹に、「1/3倍力システム」と言われる、滑車の原理を利用し小さな力で要救助者を引き上げるロープワークにはなかなか手こずった。が、山岳会らしい学びの時間は楽しい。

有意義な午後を過ごした後は、それぞれが持ち寄ったお酒やアテと共にメインは焼肉という豪華ディナー。森の中のテーブルを囲み、アルコール効果もあり和やかに交流を深めた。夜8時過ぎにはシュラフへ。同じ小屋に宿泊されていた福島の方とのいびきコラボがちょっと笑えた。

CT：日向大谷口 9:45 - 両神山避難小屋 12:24

5月28日(日) 天候：晴れ

翌朝は4時起床。先輩方の無駄のない支度をチラ見しながら、自分も準備を急ぐがやはりもたつく。シャウエッセンと濃厚味噌の朝ラーを胃に収め、5時45分山頂へ向けて出発。トレーニングとしてザックを背負ってもよし、身軽でもよし。私は後者だったため、急勾配も岩登りも純粋に楽しむことができた。木々に囲まれずっと眺望のない両神山だが、その分山頂でのひらけた景色にはよりありがたみを感じる。先月歩荷山行した甲武信ヶ岳を探するなど一通り山座同定したのち、会旗で記念撮影をした。

下山後は薬師の湯で2日分の汗をさっぱり洗い流し、秩父名物ビックサイズの「わらじカツ丼」をいただく。皆さんのように体力がつかますようにと、締めのがつつりメニューを完食！



おわりに、私の心にグッときた「コノハズク」のエピソードを。夕食後、単独で来ていた紳士から「鳴き声を確認したいから、10分だけ静かにしていただけないか」とのお願いがあった。我々の話し声を品良く注意しているのかなと反省の気持ちでいたところ、暗い森のどこからか不思議な鳴き声が…！「コノハズクです、こんなに綺麗に鳴くのは何年ぶりかですよ」と、いつのまにか再び現れた紳士が嬉しそうにおっしゃった(素敵)。“ブッポーソー(仏法僧)”に聞こえるかしら？と一同が静かに耳を傾けている間、私たちは穏やかな夜の気配に包まれていた。普段あまり使うことのない、「静謐だ」という形容動詞そのものだった。



日帰りできる山にあえてゆったり留まることで得られた貴重な感覚。山の魅力を改めて深く感じた二日間だった。(記：SKH)

CT：両神山避難小屋 5:45 - 両神山頂 7:26 - 日向大谷口 11:38

～初めてのお泊り山行でのありがとう～

- ・歩くスピードや休憩を気遣って下さったこと
 - ・12kgになってしまったザック、持てなくなったら持ってあげますよと言って下さったこと
 - ・小屋から山頂まで荷物を背負うかデポするかで迷っていたら、徐々にでいいですよと言って下さったこと
 - ・登山道に荷物を置いて休憩していたら優しく注意して下さったこと
 - ・谷側ですれ違い待ちをしてしまったら必ず山側だと教えて下さったこと
- まだまだたくさんありますが、お陰様で安全に楽しく初めてを終えました。参加した皆さんありがとうございました。(記：HYK)

入会して2回目の山行で、自身初の避難小屋宿泊、かつ寝袋を初めて使うので、寝れないかもと心配だった。が、前週の忙しさから寝不足が続いていたことも手伝って、周囲のいびきもほぼ気にならず、夜中に誰かがドアをがたがた開ける音も全く気が付かず、朝目が覚めてふと横を見たら SD 会長が正座でシュラフを片付けており、慌てて飛び起きた。山で深い疲れが取れ、より元気になって下界に帰ってきた。ますます山が好きになった。



今回は道具をお借りして、ツェルト設営・ロープワークを教えていただき、安全に関しても収穫が多い山行になった。(記：OK)